

【技術分類】 0 - 2 - 5 共通 / 治療用器材・装置 / 抜歯用器具

【技術名称】 0 - 2 - 5 - 1 ペリオトーム

【技術内容】

歯科臨床の治療において、抜歯する際に歯と歯根膜の間に挿入して使用する器具のうち、ブレードの先端部が細いものである。

材質はステンレス鋼やチタンなど金属製が多い。ブレードの先端部が細く、歯から歯根膜のみを剥離することにより、抜歯窩周囲の歯槽骨を残すことが可能である。従ってインプラント治療などにおいて、インプラント埋入のために良好な骨組織の保全が可能で即時埋入症例に有効である。

【図】

図 1 ペリオトーム

(a) 前歯用ポイント



(b) 臼歯用ポイント



【出典】

図 1： 表題：「ペリオトームセット タイプ 2」、関連箇所：「Dental デンタルサイト > ホーム > デンタルサイト > 製品ガイド > インプラント > ペリオトームセットタイプ 2」、著者：株式会社 YDM、掲載場所：株式会社 YDM ホームページ、検索日：2006 年 10 月 18 日、アドレス：<http://www.ydm.co.jp/dentists/products/implant/30015.html>

【参考資料】

刊行物名：「今から始める外科学総論に基づいたインプラント外科」、発行年月日：2006 年 9 月 10 日、監修・著者名：坂下英明、著者名：鈴木正二、重松久夫、福田正勝、馬越誠之、宮本日出、堀内裕子、発行所：クインテッセンス出版株式会社、参考箇所：52-53 ページ

【技術分類】 0 - 2 - 5 共通 / 治療用器材・装置 / 抜歯用器具

【技術名称】 0 - 2 - 5 - 2 ペリオトーム（先端微小鋸歯状タイプ）

【技術内容】

歯科臨床の治療において、抜歯する際に歯と歯根膜の間に挿入して使用する器具のうち、ブレードの先端部を薄くした上で、微小な鋸歯状に加工したものである。

材質はステンレス鋼製である。先端部を薄くした上で、微小鋸歯状に加工したブレードを上下運動させることで、弾力がある歯周靱帯を少ない力で、しかも周囲の組織を傷めずに切断を可能としたものである。

【図】

図 1 ペリオトーム（先端微小鋸歯状タイプ）



【出典】

図 1： 刊行物名：「ラッシャル 外科用インスツルメント（専用カタログ）」、発行年月日：不明、発行者：クロスフィールド株式会社、関連箇所：「トップページ＞商品情報＞取扱い商品一覧＞その他器具＞ラッシャル＞PDF カタログ」、出典箇所：8 ページ右上段、検索日：2007 年 2 月 7 日、アドレス：<http://www.crossf.com/main/news/pdf/laschal.pdf>

【参考資料】

刊行物名：「ラッシャル 外科用インスツルメント（専用カタログ）」、発行年月日：不明、発行者：クロスフィールド株式会社、関連箇所：「トップページ＞商品情報＞取扱い商品一覧＞その他器具＞ラッシャル＞PDF カタログ」、参考箇所：8 ページ右上段、検索日：2007 年 2 月 7 日、アドレス：<http://www.crossf.com/main/news/pdf/laschal.pdf>

【技術分類】 0 - 2 - 5 共通 / 治療用器材・装置 / 抜歯用器具

【技術名称】 0 - 2 - 5 - 3 エレベータ（智歯用タイプ）

【技術内容】

歯科臨床の治療において、抜歯する際に歯と歯根膜の間に挿入して使用する器具のうち、智歯（親知らず）の抜歯に適するようにブレード長が通常のものより長いものである。

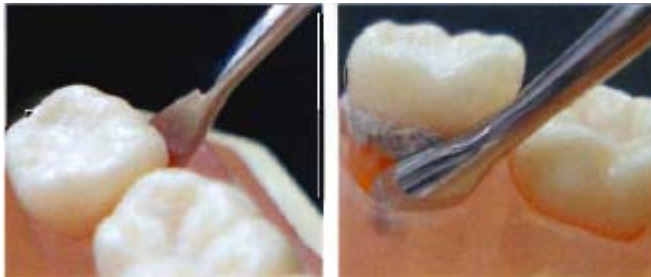
材質はステンレス鋼やチタンなど金属製が多い。先端部は薄い形状で歯牙と歯根膜の間へスムーズな挿入が可能で、歯の周囲方向に移動させながら靱帯を切断し、歯牙を歯根膜より遊離させて抜歯する。ブレードの中央部に窪み形成による滑り止め加工が施されており、握りやすい形状となっている。

【図】

図 1 エレベータ（智歯用タイプ）



図 2 エレベータ（智歯用タイプ）の使用方法



(a) 頬側からの使用例 (b) 舌側からの使用例

【出典】

図 1・図 2： 刊行物：「新製品カタログ」、発行年月日：不明、発行者：株式会社 YDM、出典箇所：1 ページ、図番号：図 1 - 左上段；図 2 - 右中段

【技術分類】 0 - 2 - 5 共通 / 治療用器材・装置 / 抜歯用器具

【技術名称】 0 - 2 - 5 - 4 エレベータ（先端らせん刻みタイプ）

【技術内容】

歯科臨床の治療において、抜歯する際に歯と歯根膜の間に挿入して使用する器具のうち、ブレードの先端部がらせん状の刻みがなされているものである。

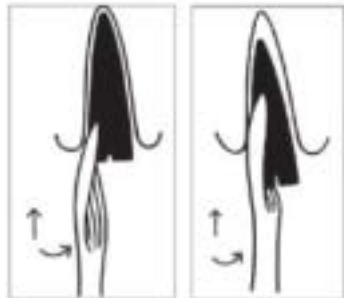
材質はステンレス鋼やチタンなど金属製のものが多い。ブレードの先端部が細く、らせん状の刻みがなされているため、歯と歯根膜の間への挿入が容易となり、抜歯が簡単に行えるものである。

【図】

図 1 エレベータ（先端らせん刻みタイプ）



図 2 エレベータ（先端らせん刻みタイプ）の使用方法



【出典】

図 1・図 2： 表題：「コップ式ルートエレベーター」、関連箇所：「トップページ>製品紹介>エルコデント社>コップ式ルートエレベーター」、著者：日本デンタルサプライ株式会社、掲載場所：日本デンタルサプライ株式会社ホームページ、検索日：2007 年 2 月 7 日、
アドレス：http://www.nd-supply.co.jp/product/images/116_erkodent.pdf

【技術分類】 0 - 2 - 5 共通 / 治療用器材・装置 / 抜歯用器具

【技術名称】 0 - 2 - 5 - 5 エレベータ（先端二段タイプ）

【技術内容】

歯科臨床の治療において、抜歯する際に歯と歯根膜の間に挿入して使用する器具のうち、ブレードの先端部の形状を二段としたものである。

材質はステンレス鋼やチタンなど金属製が多い。ブレードの先端部の形状を幅の狭い二段刃状とすることにより、歯と歯根膜の間の空隙部分への挿入が容易となり、歯の周囲方向に移動させながら靱帯を切断し、歯の脱臼と抜歯が容易にできるものである。

抜歯の際の歯周靱帯切断が最小限で可能であり、抜歯窩の損傷が最小限であるので、インプラント治療などにおいて、インプラント埋入のために良好な骨組織の保全が可能である。

【図】

図 1 エレベータ（先端二段タイプ）



図 2 エレベータ（先端二段タイプ）の使用方法

1. 歯牙長軸方向に対して真直ぐに挿入します。
2. 歯牙に沿わせて歯槽骨を圧迫しながら歯周靱帯を切り進めていきます。
3. 根長の3分の2程度切断していくと楔効果により歯牙を脱臼できます。



【出典】

図 1： 刊行物名：「Cross Field Dental World」、巻数：13、発行年月日：2006 年 9 月 20 日、発行人・編集人：加藤末吉、発行所：クロスフィールド株式会社、出典箇所：12 ページ、図番号：なし、図面名称：「ラクスエーター・プラス」

図 2： 論文名：「進化した抜歯ツール ラクスエーター - プラス」、刊行物名：「Cross Field Dental World」、巻数：13、発行年月日：2006 年 9 月 20 日、著者名：仙崎昭憲、発行所：クロスフィールド株式会社、出典箇所：11 ページ、図番号：なし（左上段）、図面名称：なし

【参考資料】

刊行物名：「Cross Field Dental World」、発行年月日：2006 年 9 月 20 日、著者名：仙崎昭憲、発行所：クロスフィールド株式会社、参考箇所：10-11 ページ